

血液培養採取バンドル"Stop The Contamination

Bundle"の導入でコンタミが **8 割減**!

和歌山県立医科大学 救急集中治療医学講座 宮本恭兵

和歌山県立医科大学 感染制御部 赤松啓一郎

和歌山県立医科大学 看護部 甲斐雅人



血液培養採取手技の **DVD 撮影**風景

感染症の最適な治療には敵である細菌を見つけ出すことが極めて重要で、そのため大切なツールとして血液培養があります。血液培養により血液の中に混じった細菌を見つけ出すことができれば、その細菌に最も効果的で副作用の少ない薬剤を選択することができます。

一方、血液培養を採取する際、患者さんの皮膚などにいる細菌が混入して検出されてしまうことがあります。たまたま検出されただけのこのような細菌は無害であり、コンタミネーション(以下"**コンタミ**")と呼んで区別します。しかしながらコンタミと本当に血液に

侵入していた菌のいずれであるかは臨床経過をみなければ判断できず、特に初期は区別が困難です。そのためコンタミの可能性が高くても治療対象とせざるを得ないことが多く、コンタミは結果的に患者さんにとって不要な治療につながる場合があります。実際にコンタミを起こしてしまった患者さんでは入院期間が延長し入院費用も50万円近く増加してしまうという報告がなされており¹⁾、コンタミを減少させる努力が必要です。

近年、国公立大学病院のコンタミ割合の全国調査がおこなわれ当院はコンタミが非常に多い病院であることが判明しました。そこで特に血液培養を採取する機会が多い救急外来で**看護師が主導し医師、感染制御部とも協力して**2018年1月から以下の血液培養採取バンドル"Stop The Contamination Bundle"を導入することとしました。

"Stop The Contamination Bundle" バンドル項目

1. 消毒前にアルコール綿で皮膚の清拭をしっかりとこなう
 2. 皮膚消毒として1%クロルヘキシジンアルコールを用いる
 3. 採血の前に速乾性アルコールもしくは手洗いで手指消毒をおこなう
 4. 滅菌手袋を装着して採血する
 5. 採血の際には穴あきオイフを用いる
 6. 採血部位として下肢や鼠径でなく可能なかぎり上肢を選択する
-

バンドル遵守率を高めるため、採血の際はチェックリストでの評価をおこないました。救急外来はたくさんのスタッフが関与するため、採血手技を録画した**DVD**を作成し新たに救急外来に配属したスタッフには閲覧してもらうようにしました。

これにより2017年上半期には6.3%あったコンタミ率が2018年上半期には1.1%となりなんと8割以上のコンタミ率減少を達成することができました。さらに、特筆すべきことにバンコマイシンの投与を受けた入院患者さんまでもが減少していることが明らかとなりました。コンタミを起こしてしまった場合に投与されることの多い抗菌薬としてバンコマイシンがあり、それを減少させることができたというのは非常に大きな成果です。

現在もこの取り組みは継続しています。**大学病院**である当院の救急外来でこのバンドルを身につけた医師が和歌山県全体へと広がり、和歌山県全体でコンタミが減少し抗菌薬適正使用につながってくれればと思っています。

1. JAMA 1991; 265: 365.